

## 市民アンケート調査の実施概要

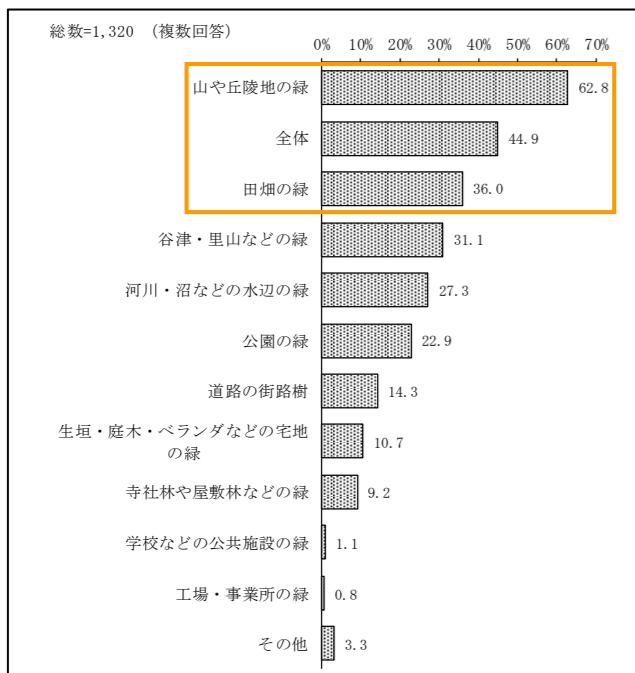
調査期間：令和4年9月  
 調査対象：市内在住の18歳～79歳（無作為抽出）  
 配布数：3,000  
 回収数：1,320（回収率44.0%）

## 市民アンケート調査の集計結果概要

### 佐倉市の緑について

#### 【緑が多い場所について】

##### ○市全体（問8）



佐倉市の緑が多い場所は、「山や丘陵地の緑」が62.8%で最も多く、「全体」が44.9%、「田畑の緑」が36.0%、「谷津・里山などの緑」が31.1%、河川・沼などの水辺の緑が27.3%、公園の緑が23.0%となっています。

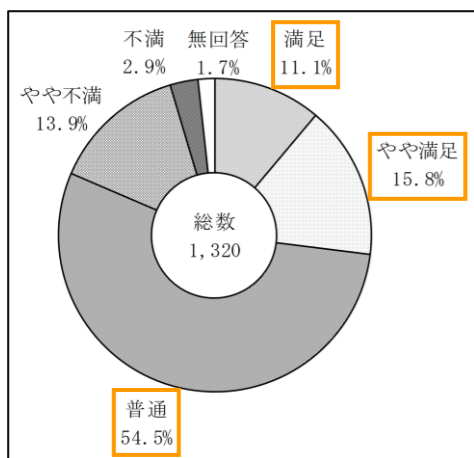
緑が多い場所について、「山や丘陵地の緑」、「田畑の緑」などの『自然のみどり』が多いと思っている人が多くなっています。実際の土地利用状況を見ても、佐倉市内は農地や山林などの『自然のみどり』が多い状況です。

また、「全体」と回答した方が約4.5割で、2番目に多くしていることから、特定の場所ではなく、市内全体の緑が多いと思っている人が多くいることが分かります。

⇒個別施策：[保全]みどりの実態調査の実施

#### 【緑の量について】※

##### ○市全体（問10）



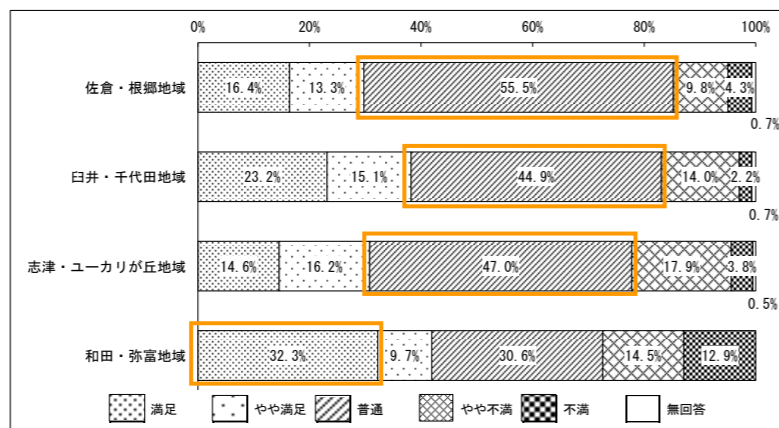
「普通」が約55%で最も多く、「満足」・「やや満足」が約27%で、「不満」・「やや不満」よりも約10%多くなっています。

全体の満足度は、81.4%となっています。

市全体の緑の量は「満足」や「やや満足」の割合が多く、満足度が高い数値となっています。しかし、地域ごとに満足度に最大10%程の差が生じている状況です。

⇒目標（指標）：緑の量に対する満足度

##### ○居住地域別（問6）

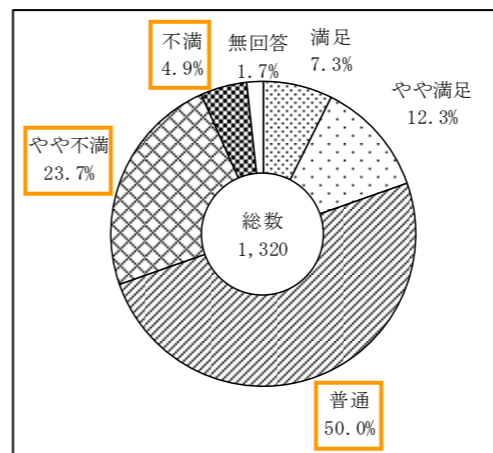


居住地域別でみると、佐倉・根郷地域、臼井・千代田地域、志津・ユーカリが丘地域では「普通」が最も多く、約4割～5割となっています。和田・弥富地域は、「満足」が最も多く約3割となっていますが、一方で「不満」の回答数も最も多く約1割となっています。

地域別の満足度は、佐倉・根郷地域が最も高い85.2%で、和田・弥富地域が最も低い72.6%となっています。

#### 【緑の質について】※

##### ○市全体（問11）



「普通」が50%で最も多く、「不満」・「やや不満」が約29%で、「満足」・「やや満足」よりも約9%多くなっています。

全体の満足度は、69.6%となっています。

市全体の緑の質は、「不満」や「やや不満」の割合が高くなっている状況です。また、地域別の満足度も最大約20%の差が生じています。

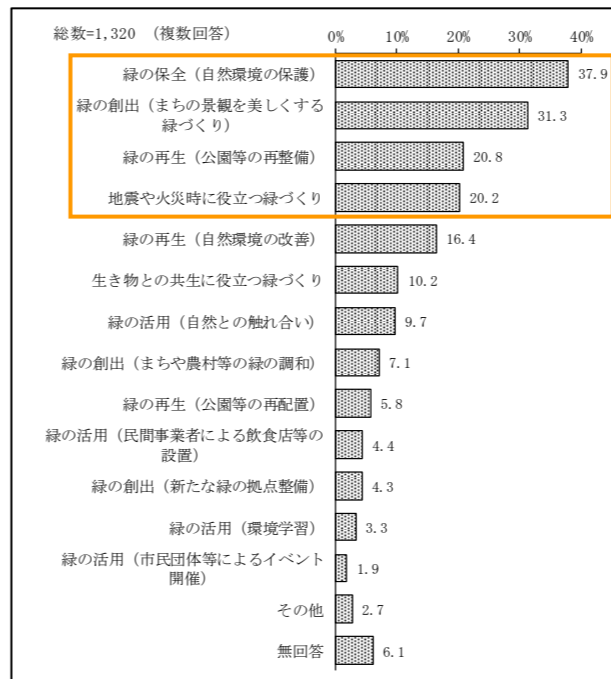
緑の量の満足度は高いものの、それに対して緑の質の満足度は低いため対策が必要です。地域ごとの差が生じないように、地域ごとに対策を講じる必要もあります。

⇒目標（指標）：緑の質に対する満足度

### 佐倉市の将来像について

#### 【市が今後目指す緑づくりの目標として特に望むこと】（問12）

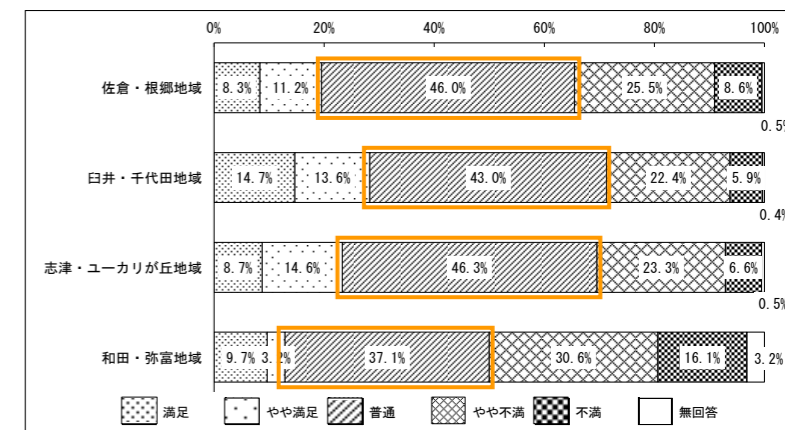
##### ○市全体



市の緑づくりの目標として、自然保護や景観づくり、公園再整備等を望む人が多くなっています。

⇒基本方針[保全][活用][共創]および個別施策を設定

##### ○居住地域別（問7）



居住地域別でみると、どの地域でも「普通」が最も多く約4割～5割となっています。

地域別の満足度は、臼井・千代田地域が最も高い71.3%で、次いで志津・ユーカリが丘地域で69.6%、佐倉・根郷地域で65.5%となっています。和田・弥富地域は、最も低い50.0%となっています。

##### ○年齢別

年齢別	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代～20歳代 (n=97)	公園再整備 (26票, 26.8%)	景観 (22票, 22.7%)	自然保護 (21票, 21.6%)	防災 (17票, 17.5%)	自然改善 (15票, 15.5%)
30歳代～50歳代 (n=541)	自然保護 (200票, 37.0%)	景観 (174票, 32.2%)	公園再整備 (123票, 22.7%)	防災 (105票, 19.4%)	自然改善 (86票, 15.9%)
60歳代～70歳代 (n=668)	自然保護 (276票, 41.3%)	景観 (211票, 31.6%)	防災 (144票, 21.6%)	公園再整備 (122票, 18.3%)	自然改善 (113票, 16.9%)

全体では、「緑の保全（自然環境の保護）」が37.9%で最も多く、次いで「緑の創出（まちの景観を美しくする緑づくり）」が31.3%、「緑の再生（公園等の再整備）」が20.8%となっています。

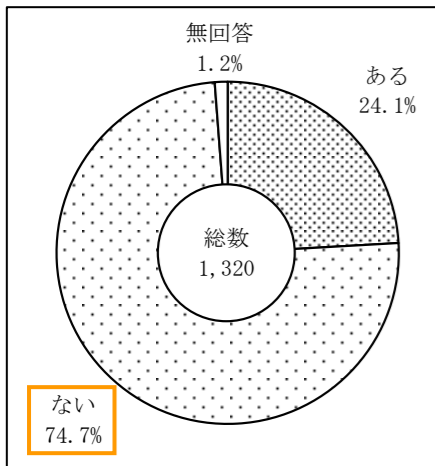
年齢別にみると、30歳代～70歳代では「緑の保全（自然環境の保護）」「緑の創出（まちの景観を美しくする緑づくり）」が多い傾向が見られます。一方、10歳代～20歳代では「緑の再生（公園等の再整備）」が多くなっています。

# 佐倉市緑の基本計画【市民アンケート調査結果概要】

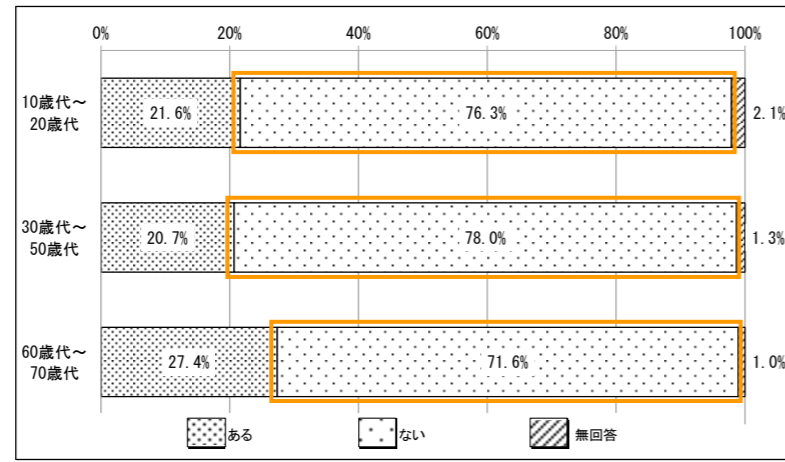
## ■ あなたと緑の関わりについて

### [緑化活動や自然環境保全活動への参加有無] (問 13)

#### ○市全体



#### ○年齢別



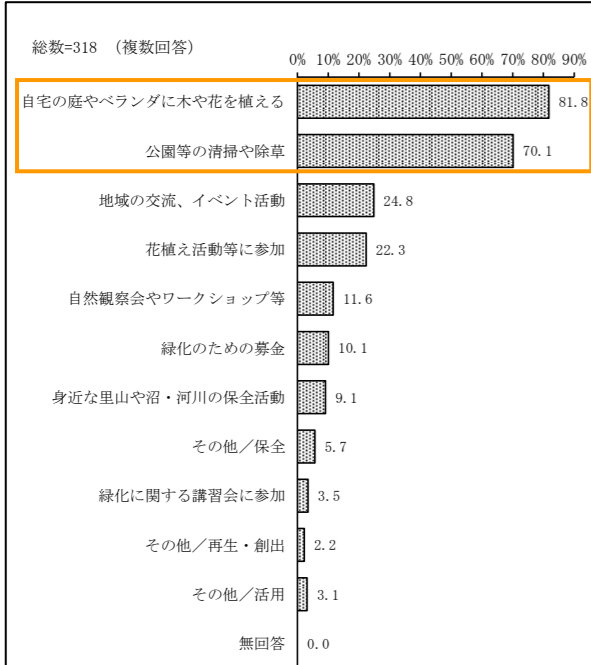
全体で緑化活動や自然環境保全へ参加したことがある人は約24%、参加したことがない人は約75%となっています。参加したことがある人は60歳代～70歳代が最も多い約27%で、10歳代～50歳代は約20%となっています。

市全体として緑化活動や自然環境保全活動への参加の割合は少なく、特に若者のみどりへ触れる機会が少なくなっていることが分かります。

⇒個別施策：[活用]第3の居場所の創出 [活用]交流・滞在空間の創出

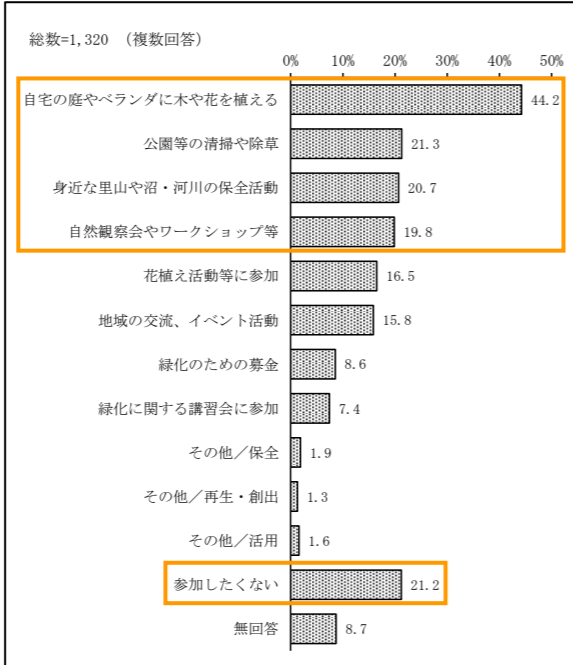
### [参加した活動] (問 14)

#### ○市全体



### [今後参加したい活動] (問 15)

#### ○市全体



「自宅の庭やベランダに木や花を植える」と「公園等の清掃や除草」については、参加した活動と今後参加したい活動のどちらでも上位を占めていることから、今後も継続したい活動であることが分かります。

また、「身近な里山や沼・河川の保全活動」や「自然観察会やワークショップ等」については、参加した活動としては少ない割合であるものの、今後参加したい活動として高い割合を占めているため、今後参加したい活動として求められていることが分かります。

### [今後参加したい活動] (問 15)

#### ○年齢別

年齢別	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代～20歳代 (n=97)	自宅の庭やベランダに木や花を植える (36票, 37.1%)	参加したくない (24票, 24.7%)	地域の交流、イベント活動 (20票, 20.6%)	身近な里山や沼・河川の保全活動 (18票, 18.6%)	自然観察会やワークショップ等 (17票, 17.5%)
30歳代～50歳代 (n=541)	自宅の庭やベランダに木や花を植える (235票, 43.4%)	自然観察会やワークショップ等 (131票, 24.2%)	身近な里山や沼・河川の保全活動 (121票, 22.4%)	参加したくない (116票, 21.4%)	公園等の清掃や除草 (112票, 20.7%)
60歳代～70歳代 (n=668)	自宅の庭やベランダに木や花を植える (307票, 46.0%)	公園等の清掃や除草 (153票, 22.9%)	参加したくない (138票, 20.7%)	身近な里山や沼・河川の保全活動 (127票, 19.0%)	自然観察会やワークショップ等 (107票, 16.0%)

年齢別でみると、どの年代も「自宅の庭やベランダに木や花を植える」が最も多くなっています。また、どの年代も「参加したくない」が約20%を超えています。

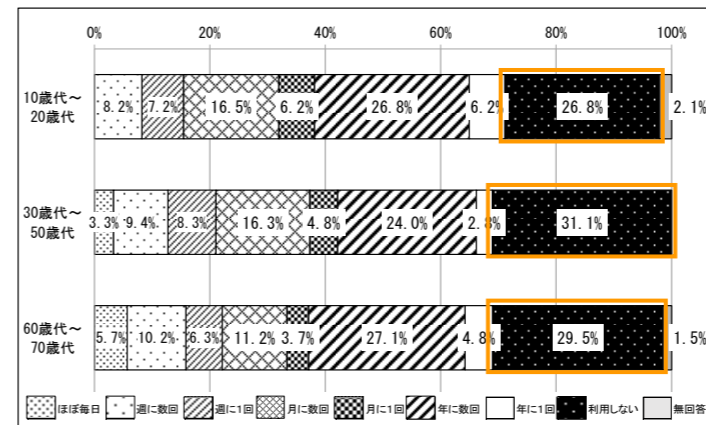
市全体でも年齢別でも、緑化活動や自然環境保全活動へ今後「参加したくない」の回答が20%を超えており、参加意欲が低くなっていることが分かります。今後は、これらの活動への啓発活動等に力を入れる必要があると思われれます。

⇒個別施策：[保全]都市のみどりの保全 (公園、緑地など) [保全]水辺のみどりの保全 (印旛沼やその流域など)  
[保全]農村のみどりの保全 (里山、谷津、農地、樹林地など)  
[活用]第3の居場所の創出 [活用]交流・滞在空間の創出  
[共創]市民協働による維持管理 [共創]民間活力導入による維持管理

## ■ あなたと公園の関わりについて

### [公園の利用頻度] (問 18)

#### ○年齢別

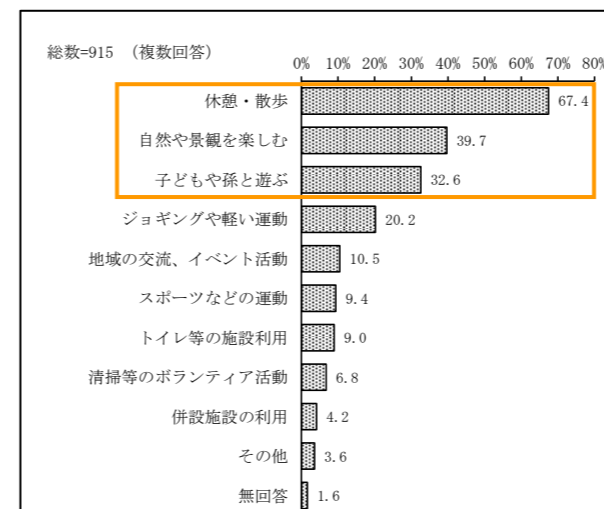


公園の利用頻度は、どの年代も「利用しない」が最も多くなっています。10～20歳代では同率で「年に数回」も最も多くなっています。

公園利用者の利用目的としては、どの年代も「休憩・散歩」が最も多くなっています。10歳代～20歳代は、「ジョギングや軽い運動」や「スポーツなどの運動」などが上位に入っています。30歳代～50歳代では「子どもや孫と遊ぶ」、60歳代～70歳代では、「自然や景観を楽しむ」が2番目に多くなっています。

### [公園利用の目的] (問 19)

#### ○市全体



#### ○年齢別 (問 19)

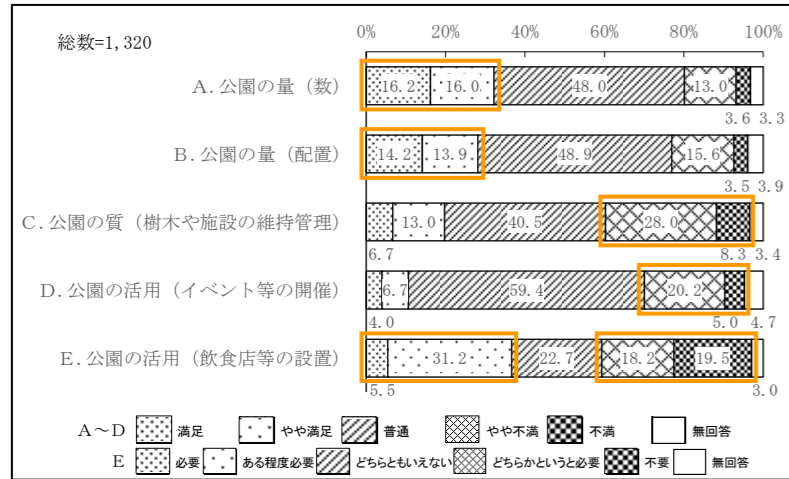
年齢別	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代～20歳代 (n=69)	休憩・散歩 (47票, 68.1%)	ジョギングや軽い運動 (16票, 23.2%)	スポーツなどの運動/自然や景観を楽しむ (同率) (15票, 21.7%)	子どもや孫と遊ぶ (11票, 15.9%)	
30歳代～50歳代 (n=373)	休憩・散歩 (234票, 62.7%)	子どもや孫と遊ぶ (156票, 41.8%)	自然や景観を楽しむ (129票, 34.6%)	ジョギングや軽い運動 (65票, 17.4%)	スポーツなどの運動 (43票, 11.5%)
60歳代～70歳代 (n=461)	休憩・散歩 (327票, 70.9%)	自然や景観を楽しむ (211票, 45.8%)	子どもや孫と遊ぶ (127票, 27.5%)	ジョギングや軽い運動 (103票, 22.3%)	地域の交流、イベント活動 (59票, 12.8%)

どの年代も公園の利用頻度が少なく、利用する人の目的は休憩・散歩が最も多くなっていました。その他に10～20歳代では運動、30～50歳代では子供や孫と遊ぶこと、60～70歳代では自然や景観を楽しむことを目的としている人が多い傾向があります。

# 佐倉市緑の基本計画【市民アンケート調査結果概要】

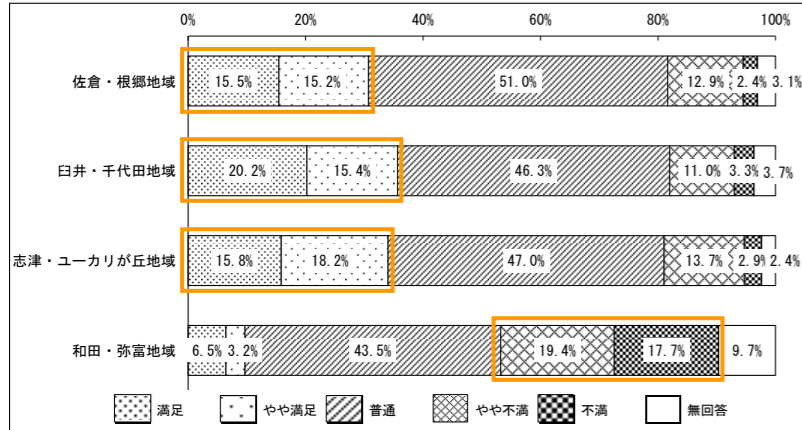
## [公園の満足度（量や質、活用）、公園の活用の必要度]（問 21）

### ○市全体

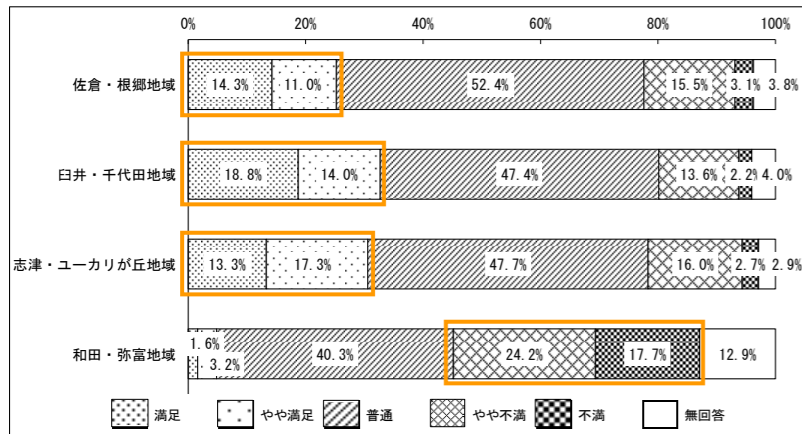


### ○居住地域別

#### A. 公園の量（数）



#### B. 公園の量（配置）



公園の量（数・配置）では、満足度が高くなっていますが、公園の質（樹木や施設の維持管理）では不満と感じている人が多くなっていることから、質の高い公園が求められていることが分かります。公園の活用（イベント等の配置）については不満の割合が多くなっているため、公園の利活用促進が求められていると分かります。

なお、公園の活用（飲食店等の配置）については必要と感じている人と、不要と感じている人の割合がほぼ同じであることから、市民のニーズに合った配置が重要になってきます。

和田・弥富地域では、公園の量（数・配置）とともに不満（「不満」・「やや不満」）の割合が多く、地域の実状にあった公園の配置の対応が必要となります。

市全体として公園の満足度（「満足」・「やや満足」）は、量（数）が約 32%、量（配置）が約 28%、公園の質（樹木や施設の維持管理）では約 20%、公園の活用（イベント等の開催）では約 11%となっています。

公園の質（樹木や施設の維持管理）と活用（イベント等の開催）については、不満（「不満」・「やや不満」）の割合の方が多くなっています。

公園の活用（飲食店等の設置）の必要度（「必要」・「ある程度必要」）については約 37%となっている一方で、不要（「どちらかというとなし」・「不要」）の割合も約 38%となっています。

居住地域別でみると、公園の量（数）は和田・弥富地域を除く地域で満足度は 30%を超えています。

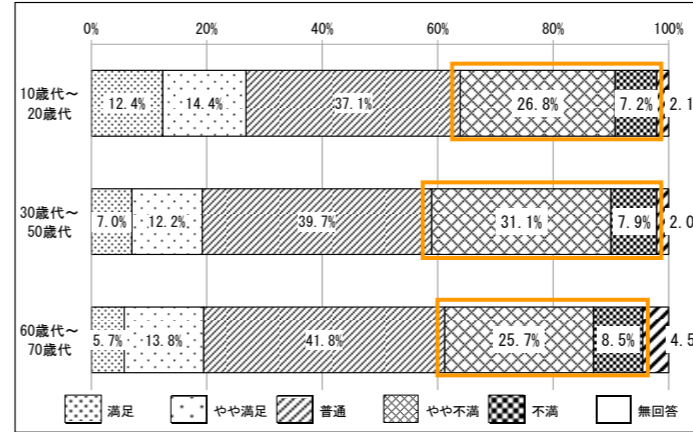
和田・弥富地域では満足度が最も低い約 10%で、不満（「不満」・「やや不満」）の割合の方が多くなっています

公園の量（配置）は、和田・弥富地域を除く地域で満足度は 25%を超えており、不満（「不満」・「やや不満」）の割合は 15%程度となっています。

和田・弥富地域は満足度が最も低い約 4.8%となっています。また、不満（「不満」・「やや不満」）の割合が約 42%とほぼ半数を占めています。

### ○年齢別

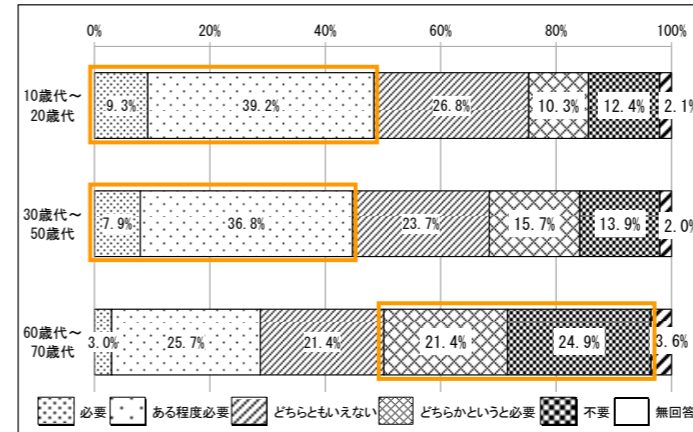
#### C. 公園の質（樹木や施設の維持管理）



公園の質（樹木や施設の維持管理）は、どの年代も満足より不満（「不満」・「やや不満」）の割合が多くなっています。

30～50歳代の不満の割合が最も多く、約 39%を占めています。

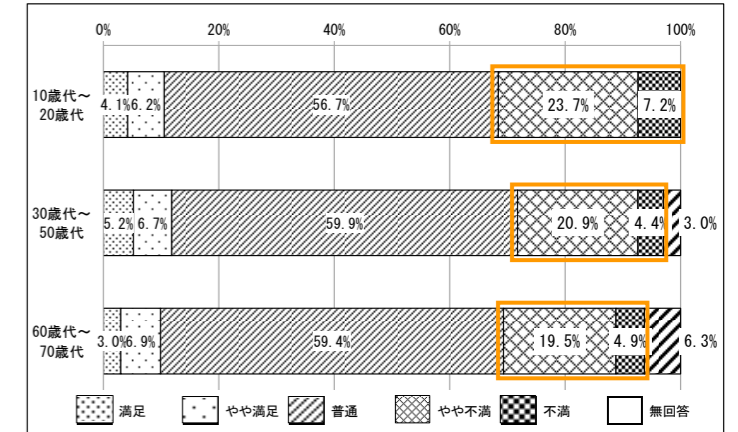
#### E. 公園の活用（飲食店等の配置）



公園の質（樹木や施設の維持管理）や公園の活用（イベント等の配置）については、どの世代も不満の割合が多くなっています。質（樹木や施設の維持管理）については 30～50歳代、活用（イベント等の配置）については 10～20歳代の不満が最も多く、特に若い世代から公園の維持管理や利活用を求められていることが分かります。

公園の活用（飲食店等の配置）の必要度については、10～50歳代で必要の割合が多くなっている一方で、60～70歳代では不要の割合が多くなっています。公園利用者のニーズにあった形で、公園の利活用を促進する必要があります。

#### D. 公園の活用（イベント等の配置）



公園の活用（イベント等の配置）は、どの年代も満足より不満（「不満」・「やや不満」）の割合が多くなっています。

10～20歳代の不満の割合が最も多く、約 31%を占めています。次いで、30～50歳代が約 25%、60～70歳代が約 24%となっています。

公園の活用（飲食店等の配置）の必要度は、10～50歳代では必要（「必要」・「ある程度必要」）の割合が多く、60～70歳代では不要（「不要」・「どちらかというとなし」）の割合が多くなっています。

10～20歳代の必要の割合が最も多く、約 49%を占めています。

また、60～70歳代の不要の割合が最も多く、約 46%を占めています。

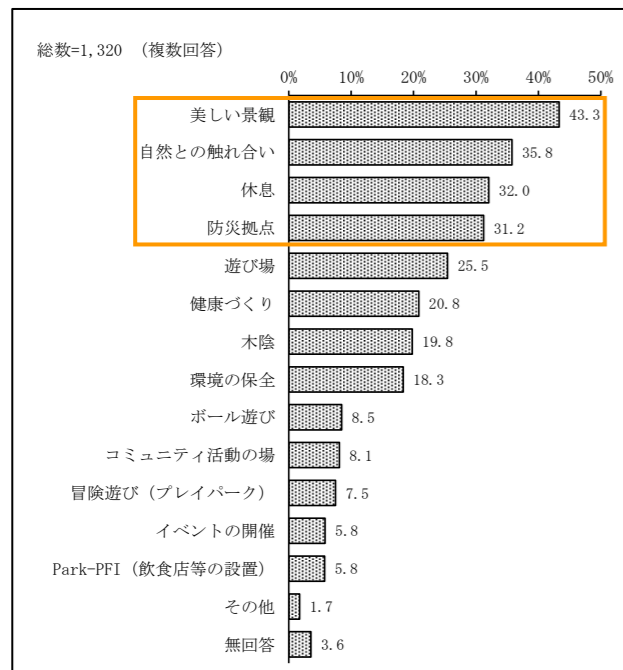
⇒目標（指標）：市民 1 人あたりの公園面積（質の高い公園を目指す）

- ⇒個別施策：[保全]都市のみどりの保全（公園・緑地など）
- [保全]公園・緑地等の再配置 [保全]公園・緑地等の質の向上
- [活用]グリーンインフラの実装（気候変動の抑制） [活用]グリーンインフラの実装（防災・減災）
- [活用]グリーンインフラの実装（生物多様性の保全）
- [活用]第3の居場所の創出
- [活用]交流・滞在空間の創出
- [共創]市民協働による維持管理 [共創]市民団体による利活用促進
- [共創]民間活力導入による維持管理 [共創]公民連携に利活用促進

# 佐倉市緑の基本計画【市民アンケート調査結果概要】

## [公園に特に求める機能] (問 22)

### ○市全体



公園にもとめる機能としては、「美しい景観」が43.3%で最も多く、「自然との触れ合い」が35.8%、「休息」が32.0%、「防災拠点」が31.2%となっています。

### ○年齢別

年齢別	1位	2位	3位	4位	5位
10歳代～20歳代 (n=97)	美しい景観 (43票, 44.3%)	遊び場 (40票, 41.2%)	休息 (27票, 27.8%)	ボール遊び/自然との触れ合い(同率) (22票, 22.7%)	
30歳代～50歳代 (n=541)	美しい景観 (241票, 44.5%)	遊び場/自然との触れ合い(同率) (175票, 32.3%)	休息 (166票, 30.7%)	防災拠点 (159票, 29.4%)	
60歳代～70歳代 (n=668)	美しい景観 (287票, 43.0%)	自然との触れ合い (269票, 40.3%)	防災拠点 (228票, 34.1%)	休息 (225票, 33.7%)	健康づくり (183票, 27.4%)

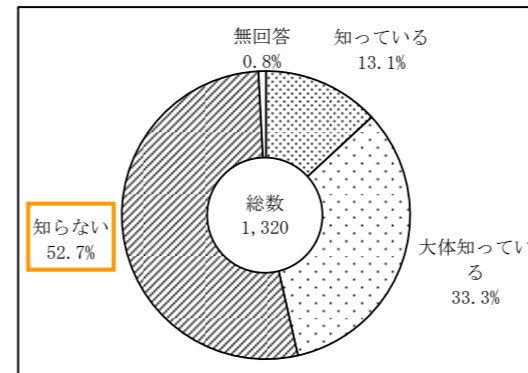
年齢別でみると、どの年代でも「美しい景観」が最も多くなっています。その他に、10歳代～20歳代は「遊び場」や「休息」、「ボール遊び」、「自然との触れ合い」が多い傾向があります。30歳代～50歳代も同様に「遊び場」や「自然との触れ合い」、「休息」が多くなっており、5番目には「防災拠点」が入っています。60歳代～70歳代は、「自然との触れ合い」や「防災拠点」が上位にあり、「休息」や「健康づくり」も多い傾向があります。

公園に求める機能として、「美しい景観」がどの年代でも最も多くなっています。また、若い世代では「遊び場」、高齢になると「自然との触れ合い」や「防災拠点」が多い傾向があります。

## ■ 生物多様性について

### [生物多様性の認知度] (問 27)

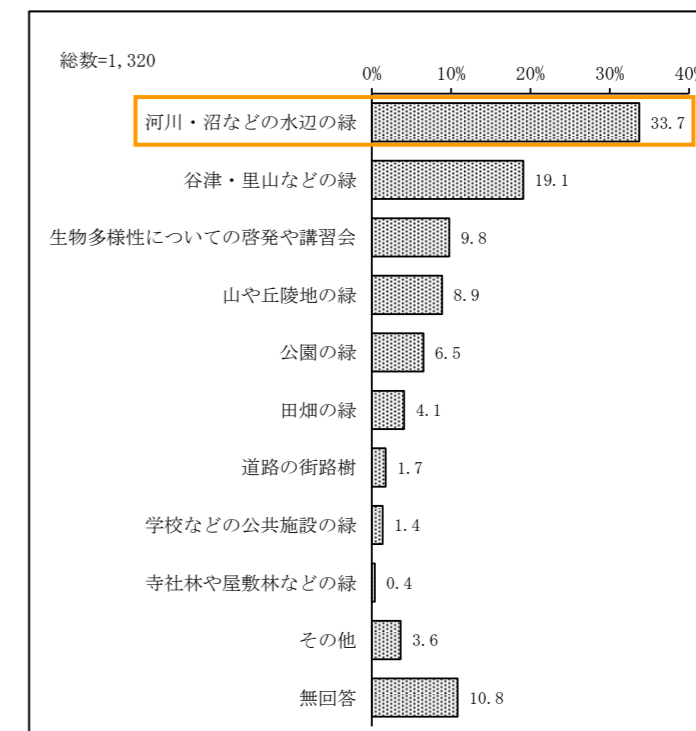
#### ○市全体



生物多様性の認知度については、「知らない」が52.7%で最も多く、「大体知っている」が33.3%、「知っている」が13.1%となっています。

### [佐倉市の生物多様性を守るために重要なこと] (問 29)

#### ○市全体



生物多様性を守るために重要なことは、「河川・沼などの水辺の緑」が33.7%で最も多く、「谷津・里山などの緑」が19.1%、「生物多様性についての啓発や講習会」が9.8%、「山や丘陵地の緑」が8.9%となっています。

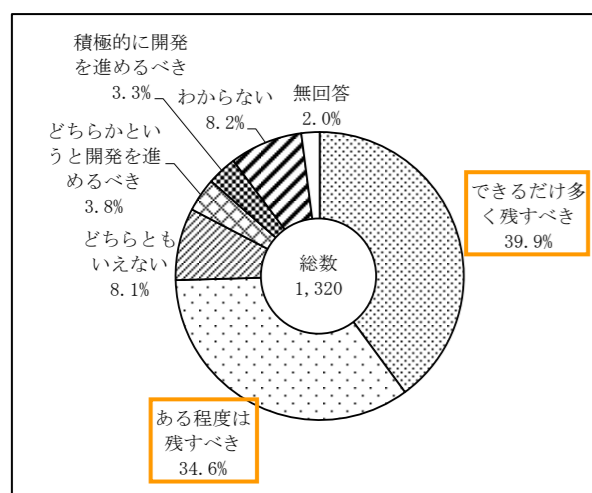
生物多様性について、市全体の過半数が「知らない」と回答しており、認知度が低い状況です。生物多様性の保全のために重要なことは、「河川・沼などの水辺の緑」や「谷津・里山などの緑」、「生物多様性についての啓発や講習会」と考えられています。

- ⇒個別施策：[保全]都市のみどりの保全（公園、緑地など）  
 [保全]農村のみどりの保全（里山、谷津、農地、樹林地など）  
 [保全]水辺のみどりの保全（印旛沼やその流域など）  
 [保全]みどりの実態調査の実施  
 [活用]グリーンインフラの実装（生物多様性の保全）  
**[活用]第3の居場所の創出**

## ■ 佐倉市の農地について

### [佐倉市内の農地の保全と開発について] (問 23)

#### ○市全体



市内の農地の保全と開発については、「できるだけ多く残すべき」が39.9%、「ある程度は残すべき」が34.6%となっており、農地に期待することとしては、「地域へ新鮮な食材を提供」が48.6%で最も多く、「自然環境の保全」が21.7%、「食育の場」が12.1%、「街並み・景観への貢献」が4.8%となっています。

市内の農地については、残して活用しつつ保全することが求められていると分かります。

- ⇒個別施策：[保全]農村のみどりの保全（里山、谷津、農地、樹林地など）

### [農地に期待すること] (問 24)

#### ○市全体

